

四国未来図

くつながらりから生まれる、次のかたちく

作成：2026年4月
作成者：経済産業省 四国経済産業局
中国四国産業保安監督部四国支部
〒760-8512
香川県高松市サンポート3番33号
高松サンポート合同庁舎北館
TEL:087-811-8504
HP：<https://www.shikoku.meti.go.jp>

Outline

- 03 四国の「いま」に触れる
- 05 四国をつなぐ私たちの組織
- 07 地域×挑戦 地域の未来を創る企業
大石工作所さん
- 09 未来×企業 ともに明日を支える企業
宮地電機さん
- 11 伝統×想い 若者へ、想いを託す企業
赤川製麺さん
- 13 これからを担うあなたへ

※本パンフレットは四国経済産業局令和7年度入局職員の研修の一環として作成しました

『課題と魅力』

四国は全国に先駆けて様々な社会課題が進行している「課題先進地域」
四国は豊かな自然、独自の文化が調和した魅力的な地域

日本各地で人口減少が進むなか、四国ではその傾向が特に深刻化しています。
これは、一人ひとりが四国に与える影響がこれまで以上に大きくなっているのでは？
自分の手で四国を変えるチャンスが来ているのでは？
私たちはそう思いました。

でも、自分たちに何ができるの？
自分たちだけで何が変わるの？
こう考える人も少なくないでしょう。

安心してください。
四国を知る・知ろうとする・伝える・伝えようとする、
そのちよっとした想いが四国をより魅力ある地域へと形作っていくのです。

このパンフレットは、四国を知る一つの方法として、
四国で輝く企業、ヒト、モノについて「つながり」をテーマに作成しました。
パンフレットを手にとったあなたも、私たちとの「つながり」ができたと思って、
より魅力ある四国と一緒に創り上げませんか？

魅力たっぷり 四国の自然とモノ

四国には課題が待ち受けていますが、それに負けないくらい素敵な場所・モノであふれています。その魅力を、四国出身者である1年目職員がお伝えします！



国内シェア9割を誇る伝統的工芸品

丸亀うちわ (香川県丸亀市)

一本の竹から骨と柄を削り出す独自の技が魅力で、軽く丈夫な使い心地が特徴。1997年には経済産業大臣が伝統的工芸品に指定しました。全国生産の約9割を占める日本一のうちわ産地として知られています。

2025年来場者数は108万4128人
瀬戸内国際芸術祭



出典：瀬戸内国際芸術祭2025 2025年11月12日公表
「瀬戸内国際芸術祭2025の総来場者数について」
<https://entouchi-artfest.jp/news/detail/556785-36b0-4a31-8e56-1407d9d4c45>
(2026年2月25日アクセス)

天然のツタでつくる 祖谷のかずら橋 (徳島県三好市)



地域団体商標を取得！ 半田そうめん (徳島県つるぎ町)

江戸時代から受け継がれてきた手延べの技から生まれた半田そうめん。吉野川の清流と山風が育てる、太めでしっかりとしたコシが魅力の麺は、徳島県つるぎ町が地域団体商標として誇る逸品です。

木製の鳴子、よさこい節で踊る よさこい祭り (高知県高知市)

鳴子を打ち鳴らし、煌びやかな衣装で街を舞う高知の夏を彩るエネルギーあふれる踊りは、自由な振り付けと迫力ある演舞が魅力。8月の街中を熱気で満たす、日本を代表する夏日祭りの一つです。

豪華な太鼓台×男衆の力 新居浜太鼓祭り (愛媛県新居浜市)

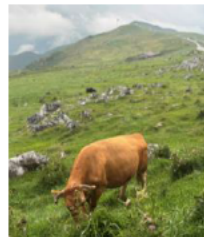


約3000年の歴史ある 日本最古の温泉 道後温泉 (愛媛県松山市)



日本三大カルストの一つ 四国カルスト (高知県・愛媛県)

標高約1400mの高原に白い石灰岩と草原が広がる四国カルスト。「天空の道」と呼ばれる尾根を走れば、放牧風景と雄大なパノラマが迎えてくれる。四国屈指の絶景スポットです。



1年目職員が思う四国の魅力

四国は四万十川や祖谷溪など多様な景観が広がり、人々の暮らしを支えてきました。徳島県特産のスタチをはじめ、豊かな自然に育まれた食の恵みも魅力的で、自然とともに食も楽しめる暮らしが息づいています！



四国の魅力は「豊かな歴史と文化」だと思います。特に、お遍路のような県の垣根を越えた文化は全国でも有数の重要な文化です。また、徳島県の阿波踊りや香川県の旧金比羅大芝居 金丸座など、全国的にも有名な文化や行事が県ごとに力強く根付いています！



総生産額

2.5%

146,703億円 (2021年度)

第1次産業 4.9%
第2次産業 2.8%
第3次産業 2.4%

総面積

5.0%

18,803km² (2020年10月1日時点)

製造品出荷額等

3.1%

113,208億円 (2022年)



人口

3.0%

360万人 (2024年1月1日時点)

四国の人口は360万人。全国の3%の人が暮らしており、総生産額、製造品出荷額など、経済規模も全国の約3%とされています。そして、第一次産業の比率(4.9%)が、第二次産業や第三次産業より高く、四国は自然環境や気候の影響を受けやすい産業構造となっています。

経済指標でみる四国

全国比でみた四国の割合



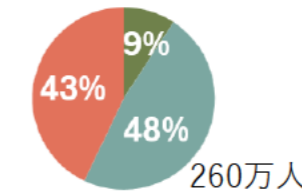
四国ってどんなところだろう。一步踏み入れたその先で、四国の魅力に出会えます。

四国の「いま」に触れる

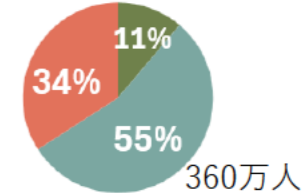
四国内 2050年までに100万人減少予想

では、四国の人口推移はどのようになっていくのでしょうか。2024年に360万人いた人口も、2050年までに260万人に減少すると予想され、年齢階層別構成でも、65歳以上人口が4割を超えると推測されます。また、地域別の将来人口推計を見ても、特に山間部で人口減少が顕著だと読み取れます。地域交通の問題や、社会的孤立の増加など、さまざまな社会課題がより深刻化するのには避けられない状況です。

年齢階層別構成 (2050年)

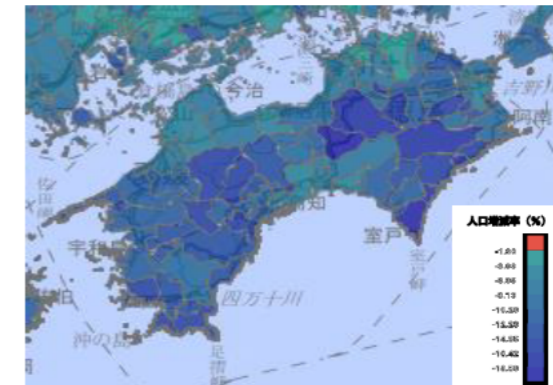


年齢階層別構成 (2024年)



参照：株式会社日本政策投資銀行 2025年度版 四国ハンドブック

<人口増減率 2045年-2050年>



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」 RESASにて作成
【注記】人口増減率 = (A-B) ÷ B A: 2050年の人口、B: 2045年の人口



四国を未来へつなぐ私たちの取組をピックアップ!

地域未来牽引企業

経済産業省では、地域経済の中心的事業者を「地域未来牽引企業」として選定しています。四国内でも約300社が選定されており、地域経済を牽引する事業の実施や地域雇用の確保など、地域のリーダー企業として輝いています。人口減少など多くの課題が偏在している四国にとって、地域未来牽引企業が果たす役割や与える影響はとて大きいと思っています。引き続き、地域の企業と力を合わせながら、更なる産業の活性化を目指します!



省エネお助け隊

地球温暖化は世界的な課題で、その防止に向けた身近な取組が“省エネ”です。省エネは日本のエネルギー安定や企業経営、地域の暮らしを守るうえでも欠かせません。そこで経済産業省（資源エネルギー庁）では、中小企業等の省エネ化を支援する「省エネお助け隊」を選定し、専門家が相談から現地調査、改善提案、さらには伴走支援までを一括してサポートしています。中小企業が産業の中心を担う四国だからこそ、省エネお助け隊と連携し、地域の持続的な発展につなげていきます!



地域団体商標

各地域には多くの魅力的な商品やサービスがあります。それを“地域ブランド”として守り育てていくために、経済産業省（特許庁）では「地域団体商標」制度を導入しています。

人口減少が進む四国において、地域ブランドの価値を高め、地域事業者の競争力を支える地域団体商標の役割はますます重要になっていると感じています。これからも、地域の魅力を守りながら、関係団体や事業者の皆さまと力を合わせ、四国のブランド価値向上と地域産業の活性化を目指します!



では、実際の声をきいてみよう!!

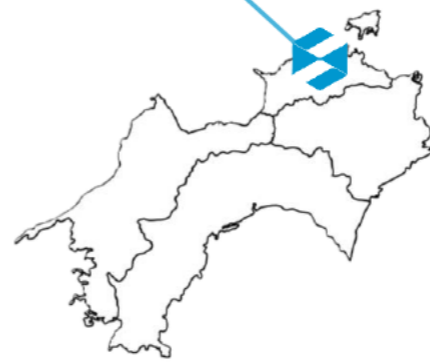
四国経済産業局が展開する施策は、地域企業の取組を支えるだけでなく、四国が未来に向けて歩み続ける力となることを目指しています。私たち職員にとって、現場に足を運び企業の声に触れることは、地域とともに学び、高め合うために欠かせない姿勢です。



今回は地域の課題解決に積極的に取り組む3社に訪問し、その取組と地域への思いなど、素敵なお話を聴かせていただきました!

四国をつなぐ私たちの組織

四国経済産業局
中国四国産業保安監督部
四国支部



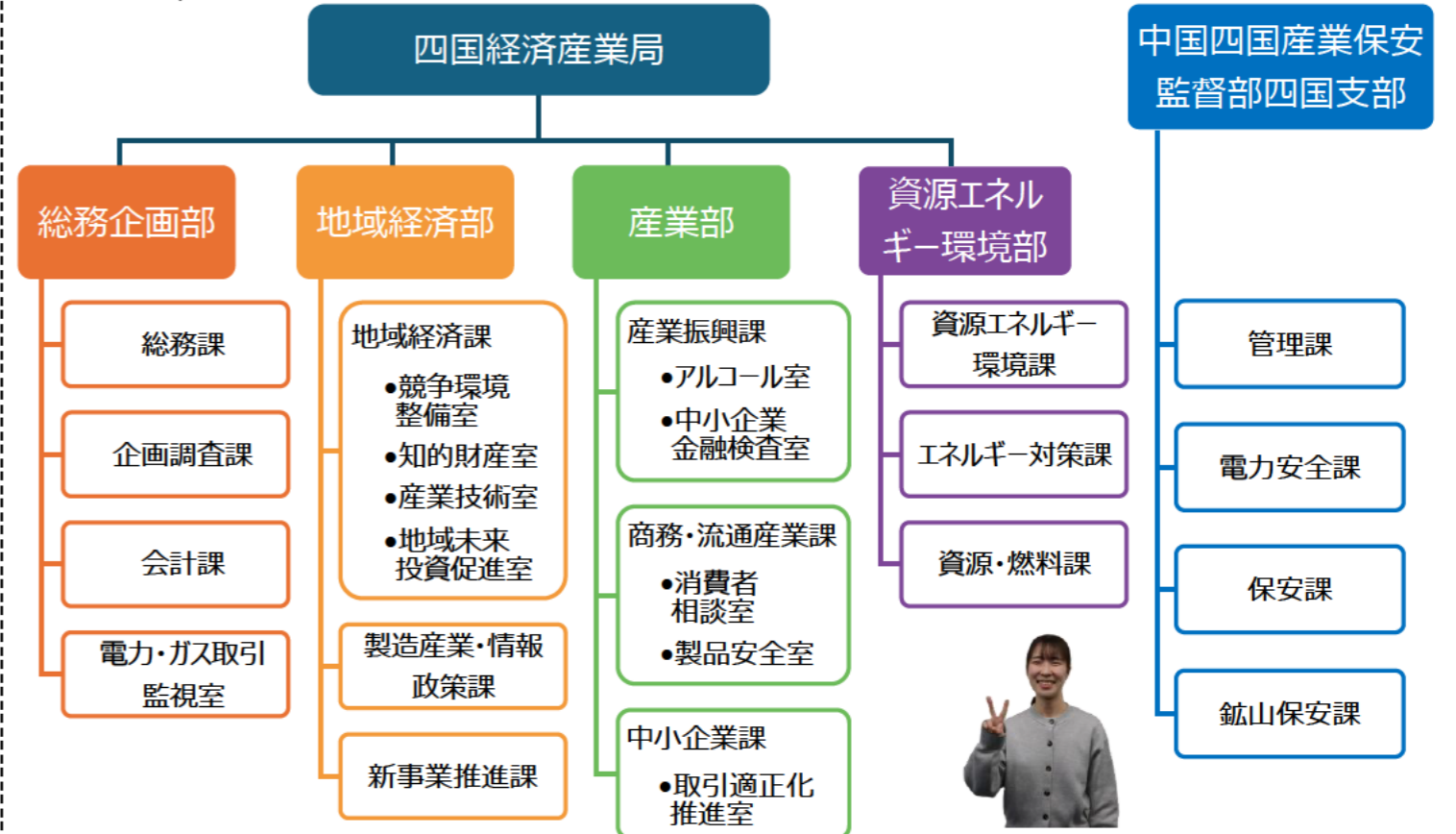
四国経済産業局と中国四国産業保安監督部四国支部は、各地域に設置されている経済産業省の地方支部局として、四国4県（徳島県、香川県、愛媛県、高知県）を管轄しています。首都圏との距離的・時間的な制約を抱える四国では、若年層の流出や少子高齢化が進み、伝統や産業を未来へつなぐ岐路に立たされています。何も行動を起こさなければ、四国の元気は失われ、未来に受け継がれる産業や魅力は衰退してしまいます。だからこそ私たちは、この「ピンチをチャンス」に変えるため、地域の皆さまと連携しながら、未来を切り拓く取組を進めています。私たちの取組は、単なる支援策ではなく「四国を未来へつなぐプロジェクト」そのものです。私たちが進める四国の未来づくりを少しのぞいてみませんか。

中国四国産業保安監督部四国支部では、電気・ガス等の許認可審査、立入検査などを通じて、「国民の安全の確保」と「環境保全」を図り、必要不可欠なライフラインの安定を支えています。

四国経済産業局は、関係省庁、地方自治体、関係機関と連携を取りながら、中小企業支援等の産業振興から、消費者保護や資源エネルギー分野に至るまで、広範な経済産業政策を積極的に展開しています。



組織図



地域×挑戦

地域の未来を創る企業



◆企業HP◆



愛媛県新居浜市



新居浜市は、瀬戸内海の穏やかな自然と四国山地の豊かな緑に囲まれたまち。現在では産業遺産と近代的な工場群が共存し、地域文化や「新居浜太鼓祭り」など伝統も息づいています。

愛媛県新居浜市にある株式会社大石工作所は、昭和13年の創業以来、産業の根幹を支える化学プラント分野を中心に事業を展開しています。近年は、オープンファクトリーや雇用環境の整備、GX分野という新たな事業領域への挑戦など、先進的な取組にも積極的に挑戦している企業です！今回は、「地域×挑戦」のテーマのもと、特に地域とのつながりについて、代表取締役の大石憲一氏、専務取締役の渡邊健治氏、総務部の安宅悠基氏、嶋田聡氏にお話を伺いました。

取材班：永野若菜、山口翔、山崎駿

「地域×挑戦」という取材テーマですが、御社はさまざまなことに取り組まれていますね。

主たるプラント事業に加え、雇用環境の整備やSDGsの推進など、企業価値の向上に取り組んでいます。また、地域という観点では、オープンファクトリーや高校等への出張説明会を実施しています。

オープンファクトリーに挑戦した経緯は何ですか？

地域振興イベント「えひめさんさん物語」のオープンファクトリー企画の一環である「アーティストコファクトリー」への参加がきっかけでした。オープンファクトリーは、地域の皆さまをはじめ、多くの方に当社を知っていただく貴重な機会です。こうした取組を通じて、社員の意識改革にもつながり、企業としてさらに成長するきっかけになると感じました。

当時、プレイベントから新居浜市内で手を挙げたのは当社のみでしたが、この取組もたら

す効果を直感し、参加を決意しました。

「挑戦を恐れない御社の企業姿勢ですね。取組を通して、どのような効果を得ましたか？」

当日は多くの方にご来場いただきました。企業さまとのやりとりが基本である私たちにあって、地域の皆さまと直接お話しする新鮮な機会でした。自分たちの業務を説明することで、仕事への誇りを再確認する場となりました。

また、こうした取組を継続したことで、地域の他企業も参加するなど関心が広がっています。当社が先進的な取組をすることによって、地域にも良い影響を与えると考えています。



「新居浜地域」といえば太鼓祭りが盛大に行われている印象です！

「新居浜太鼓祭り」は地域をあげた一大イベントです。当社も私を含め多くの従業員が参加しているんですよ。地域に根ざす企業として、こういった伝統文化を継承していくことも大事にしています。それになんといっても、何事に対してもとにかく楽しむことが一番だと思いますし！

「とにかく楽しむこと」ですね。社長は仕事においても意識されているのですか？

仕事に対するモチベーションを保つために楽しむことは大切で、自分だけでなく、社員にも楽しく仕事に励んでもらいたいと思っています。日によってコンディションも変わるので追い込む必要は無いのです。失敗してもいいから、主体性をもって仕事に取り組んで欲しいと社員にも伝えています！

「主体的に取り組む、本当に大切なことだと思います。」

社長就任以来、私は企業理念の浸透と、挑戦を大切にする企業風土の構築に注力してきました。特に、一生懸命に取り組んだ上での失敗は前向きな価値があると考え、積極的に容認する姿勢をとっています。若手のうちにさまざまなことへ挑戦し、経験を積んでもらいたいと思っています。



「今後の展望を教えてください！」

事業そのものの抱負としては、千葉にも拠点をつくりましたし、四国だけではなく関東にも商圏を広げて行きたいと思っています。また、新居浜市の企業として、当社のオープンファクトリーをはじめとした取組を市外さらには県外に発信していきたいです。幅広く発信していくことで、今後のビジネスチャンスにもつながるでしょうし。

私にとって大石工作所は「使命」。会社のために何が最善なのか常に考え、尽力しています。当社が地域にずっと残る会社であるために、これからも進み続けます。

Oishi Park

大石工作所の敷地内につくられた交流スペース「Oishi Park」。役目を終えた機械や部材を再利用し、ものづくりの現場を身近に感じられる場として整備されました。オープンファクトリーは、産業が社会や地域にとっていかに重要であるのか発信し、これから働く人が「仕事の背景」に触れるきっかけを作っています。





「地域企業に寄り添った事業をされる上で大切にしている理念や価値観はありますか？」

「期待を超える感動を」という経営理念です。創業以来、さまざまなメッセージや理念が掲げられてきましたが、会社の根幹となる考え方をシンプルに表現すべきだという意見が挙がりました。そこで昨年、社長を中心に幅広い世代の社員により現在の理念が策定されました。この言葉には「期待を超える感動を生み出すことこそプロである」「もらった感動と感謝を大切にしよう」という社長の思いが込められています。この経営理念のもと、地元「四国」に宮地電機があつて良かったと思っただけのように、幅広い事業を展開しています。

「地元で誇れる企業を目指しているのですね。現場で働く若手社員としてどのように感じているか教えてください。」

現在、省エネやカーボンニュートラルが社会的に注目され、以前よりも身近な言葉になってきていると思います。注目度の高い分野の業務に携われていることは、その取組を支える一員としての役割を実感でき、大きなやりがいを感じています。また、専門的な知識が求められる分野ではありますが、当社には多くの専門家が在籍しており、日々新たな知見を得られる点もやりがいを感じています。

「今後、どのような「未来」を描いていて、その中でどんな役割を担っていく企業になりたいですか？」

私たちは、若者が四国に戻り、地域を盛り上げていく未来を実現したいという強い想いを持っています。「過疎地域だから仕方ない」と諦めるのではなく、若者がやっぱり四国が好きだ、四国で働きたいと思える地域を創っていきたくと考えています。そして、地元で懸命に商売を続けている事業者の方に寄り添いながら、地域の持続性を支えていくことも私たちの大切な役割だと考えています。

未来×企業 ともに明日を支える企業

◆ 企業HP ◆



高知県高知市



高知市は、北に四国山地が連なり、南には太平洋に臨む、自然に恵まれたまち。薬焼き鯉のたたきに代表される食文化や、夏を彩るよさこい祭りなど活気あふれる伝統が息づいています。



高知県高知市にある宮地電機株式会社は、1945年の創業以来、電気設備機器の販売をはじめ、照明・インテリアデザイン、カーボンニュートラル支援など幅広い事業に取り組んでいます。四国内に複数の拠点を構えており、地域に根ざしたネットワークを築いています。今回は高知支店を訪問し、地域とともに成長し続ける同社の取組やビジョンについて、常務取締役の宮地宏明氏、省エネルギー担当室長の佐古文男氏、柏原明弘氏にお話を伺いました。

取材班：植松 桜矢、乙武 柁輝、和田 倫太郎



「御社は幅広い分野で事業展開されていますよね。」

そうですね。当社は、西日本トップレベルの在庫数を誇る瀬戸内配送センターを有しており、電気資材の卸売販売を基幹事業としています。その他にも、飲食業や照明事業、省エネ事業など幅広い分野へと事業領域を拡大してきました。

特に、省エネ分野は社会的関心が高く、今後さらに重要性が増す領域と考えています。当社では「省エネお助け隊」を通じて、省エネ事業の推進に力を注いでいるところです。

「省エネにも注力されているんですね。「省エネお助け隊」について、始めた経緯や特徴について知りたいです！」

エネルギーコスト高騰により、地域企業の経営が圧迫される状況が続くなか、四国内で身近に寄り添って支援できる企業が必要だと考え、「省エネお助け隊」としての取組を始めました。この事業では、相談応対から現場訪問、改善提案まで一貫して行います。「何から取り組めばよいのか分からない」という段階から企業の状況を診断する、「企業の健康診断」のような役割を果たしているのが特徴です。

「診断先の企業からはどのような声がありましたか？」

「やって良かった、ありがとうございます」という声を多くいただいています。その言葉が、私たち省エネお助け隊の原動力になっています。

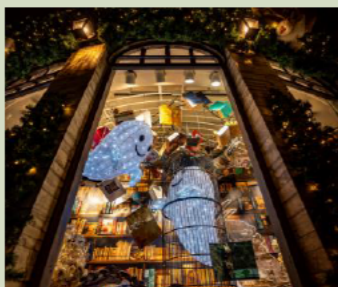
▼ 診断中の様子 (省エネお助け隊)



Miyaji Lighting Design



高松シンボルタワー
撮影: Nacasa & Partners



ラ・ヴィータ
クリスマスディスプレイ

宮地電機は、高松シンボルタワーや松山城などをはじめ、四国各所を彩る照明事業を手掛けています。光で人の心を癒し、ときには活動的に彩り、カラーデザインや快適な空気環境から心地よい空間づくりを目指しています。

ラ・ヴィータ（高知市）は、照明・住環境の相談・打合せを主目的とした施設です。また、宴会・ウェディング会場として、地域企業や人のつながりを創出できる場としても活用されています。

出典：宮地電機株式会社HP 僕らの仕事 (<https://works.miyajidenki.com/>)

伝統×想い

若者へ、想いを託す企業

◆企業HP◆



徳島県美馬郡
つるぎ町



つるぎ町は、吉野川の南岸に位置する自然豊かなまちで、2005年に半田町、貞光町、一宇村が合併し誕生しました。「半田そうめん」などの特産品や豊かな自然、歴史的な町並みを通じて、古くからの伝統を現代に伝える地域です。



徳島県美馬郡つるぎ町にある赤川製麺は、天保4年（1833年）の創業以来、地域に根ざした特産品である「半田そうめん」を、全国的に希少な天日干し製法で作り続け、家族3人で作業に励んでいます。今回は、次世代への継承や想いについて、代表者の赤川 治氏、奥様の美千代氏、跡継ぎであるお孫さんの中島 瑞希氏にお話を伺いました。

取材班：青地 来美、菅 百衣子、須藤 舞香

徴があります。麺が太くなるほど粗が目立ちやすくなるため、手が抜けません。家業を継いで40年経った今でも、より美味しいそうめんを作るために日々模索しています。

「高い技術が必要なんです。中島さんは、どのような想いで帰郷され、家業を継がれることを決意されたのか教えてください。」

関西の友人に半田そうめんをプレゼントした際、「すごく美味しい」と喜んでもらえました。その時、自分にとっては幼い頃から身近にあり、当たり前存在だったそうめんが価値あるものだと実感しました。最近では、取材にも取り上げていただけるブランドとなり、「伝統ある家業を途絶えさせたくない」という想いが強くなり、自分の意志で継ぐことを決めました。



「幼少期中の中島さん」

「生産者として半田そうめんに携わる日々のなかで、今後の目標はできましたか？」

作業工程は、約1年半で覚えましたが、少しの加減で仕上がりが変わるため、うまくいかない日もあります。朝4時からの作業は

大変ですが、その分、良いそうめんができた時はやりがいを感じ、継いで良かったと思っています。目標は、経営を安定させて、

祖父母が安心して引退できるようにすることです。そのため人を雇うことも考えていますが、「一つひとつの工程を丁寧に」という当社の想いをきちんと理解してくれる人に来て欲しいと思っています。

「8代目の想いとお孫さんにしっかり伝わっているんですね。今後その想いをどのように次世代へつないで欲しいですか？」

孫には自分らしい方法で、お客さまに「美味しい」と思ってもらえるそうめんを作って欲しいです。全国各地に当社のそうめんを購入してくれるお客さまがいて、中には100歳を超えるリピーターもいます。そのような方々に「美味しい」と思ってもらえるそうめんを作れたのであれば、今の赤川製麺の味と変わってもかまいません。全く同じ工程でも、日々仕上がりが変わる製品だからこそ、お客さまに認めてもらえる、自分なりのそうめんを追求して欲しいです。そして、地域や世代的枠を超えて愛される半田そうめんを若い人もたくさん食べてもらえると嬉しいですね。



「インタビューの様子 左：中島さん 右：赤川さん」

「工程を一つずつ丁寧に積み重ねることが大切なのですね。赤川さんは、家業を継がれ40年ですが、一人前の職人になるにはどのくらいの年数が必要なのでしょうか？」
一人前になるには非常に長い時間を要します。そうめん作りは天候に左右されるため、毎日、干す時間や塩加減の微調整が必要です。特に、半田そうめんは一般的なそうめんと比べて麺が太い特

「創業以来、天日干し製法を守り続けておられますね。そのなかで、8代目の赤川さんが特に大切にしていることを教えてください。」
「その日の作業をきちんとする」この積み重ねを大切にし、手間を惜しまず、一つひとつの工程に心を込めて製造しています。多くの製麺所が室内干し製法を採用するなか、当社は昔ながらの天日干し製法にこだわっています。室内で干すと麺の色が黄色くなりやすいのですが、天日干し製法では白みを帯びたコシの強い美しい麺に仕上がります。ただし、この製法は天候に左右されやすく、日光の当たり具合による色むらを防ぐため、細やかな天候確認が欠かせません。非常に手間のかかる作業ですが、その分、味わいと見た目には確かな違いが表れます。」



「天日干しの様子」

2022年3月9日、「半田そうめん」は地域団体商標を取得しました。実は、2007年の初回申請では、組合内の足並みがそろわず、取得ができませんでした。しかし、2011年の東日本大震災で大切なものを理不尽に失う怖さを目の当たりにし、「守るべき地域資源があるのだから、今できることをしなくてはならない」と強く感じ、商標取得に再挑戦しました。2018年に乾麺グランプリで優勝した、当組合ブランド「入魂」は商標取得後も多くの人に親しまれています。

自分らしく!!
楽しんで
北室瑠子

「半田手延べそうめん協同組合
代表理事北室さんからのメッセージ」

Handa Somen History

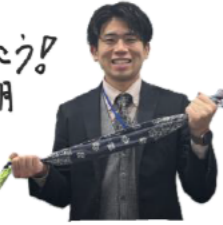


「入魂」

四国の未来をつくるのは“あなた”

四国には、挑戦できる環境と支え合うつながりがあります。だからこそ、あなたがその変化の中心になれるのです。

想いを
みんなで作っている！
木村 博太郎



何事にも興味を持ち、
学び続ける姿勢を大切に！
柏原 用弘



魅力ある四国を一緒に
一緒に“未来”を築こう！
藤井 美穂



伝統の技術をなく
たのむ少人数で
糸川 治



ひとつひとつの
つながりこそが
根松 洋久



やり切る覚悟と、人としての厚み。
四国の未来を動かすか
君にはそれがあがる。
大石 英一



やらない理由のやらない精神を
一緒に四国の未来をつくろう！！
山崎 駿



四国に、
笑顔いっぱいの未来を
須藤 有香



その一歩が四国の未来を変える。
夢と行動で四国を立ち上げよう！
嶋田 聡



四国の地で
みんなで挑戦！
山口 翔



過疎地域を若者パワーで
明るくし人口を増やしたい
です。
赤川 美々代



困難に立ち向かうことに価値がある。
四国の未来へ共に挑戦しよう。
安宅 悠基



未来につながる四国を
一緒に作っていきましょう！
永野 若菜



省エネで四国を元気に
しています！
地元を一緒に盛り上げ
ましょう！！
宮地 玄明



想像を超える
四国の未来を！
和田 倫太郎



この場所から、
次の景色へ！
乙武 征輝



一緒に四国を盛り上げよう
中島 痛布



元気あふれる四国へ
一緒に一歩を踏み出しましょう！
石橋 かえで



ものづくりで四国の未来を熱く！
創造力で共に地域を盛り上げよう！
渡邊 健治



四国の大きな可能性を
未来の形へ！！
菅 百衣子



盛り上がる地元四国を
共に元気にしよう！！
佐古 文男



若い力で、さらに
誇りを持てる四国へ！
青地 来美





あなたはどんなな四国を
創造しますか？

